

令和 8 年度第 1 回小田原市卸売市場審議会水産部会 会議録

日 時：令和 8 年 7 月 23 日（木）午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分

場 所：小田原市公設水産地方卸売市場 2 階 水産海浜課会議室

出席者：別紙名簿のとおり

事務局：植田課長、山地担当課長、内田副課長、大竹主事

事務局である水産海浜課の植田課長の進行により、第 1 回小田原市卸売市場審議会水産部会を開会し、引き続き、出席者及び事務局職員の紹介、配布資料の確認後、中川部会長により議題の審議が進められた。

【議題】

（１）会議の公開・非公開について

初めに、議題「（１）会議の公開・非公開について」審議が行われ、非公開とすべき事項がない旨確認が行われた。その結果、本水産部会は全て公開と決定し、中川部会長より傍聴者の確認を求められ、傍聴者が 1 名いることを事務局員が報告した。

（２）水産市場再整備構想（素案）について

続いて、議題の「（２）水産市場再整備構想（素案）について」事務局から説明を行い、中川部会長進行により質疑が行われた。

<各委員から主な意見等は次のとおり>

（中川部会長）

「2 本市場の現状（1）取扱高の推移」に、この市場が衰退していることを示す興味深い数字がある。冷凍塩干品のグラフを見ると、25 年前に比べて、取扱量で約 4,000t、取扱金額で約 30 億円の減少が見られる。この点が取扱金額伸び悩みの要因と考えるが、卸売業者としてどのように捉えているか伺いたい。

（神山委員）

冷凍塩干品の数字が売上構成の中の 20%程度だが、他市場を見ると 40～50%以上になっている。冷凍塩干品を強化するうえで他市場では、配送・ピッキングを優先して 24 時間の対応を可能にするか、市場に荷を集め、人を集めて市場を回していくかの 2 択であり、私は後者の方を選んでいく。何か提案を示して、相手に対して打って出る姿勢をとる必要があると考えており、冷凍塩干品の部分の策略を詰めている段階である。

（中川部会長）

冷凍品に対する需要がかなり上がっている中で、冷凍塩干品を伸ばすためにはコールドチェーンを確保するための施設が基本となるが、この場所には冷凍機能がほぼないに等しい。物流を検討し、卸売の方でイニシアティブをとってもらうことが、目標の 100 億円に到達するうえでの一番難しいところだが、一番の近道である。

(高橋委員)

取扱高と取扱金額のグラフが出ているが、消費動向が示されていない。取扱量を増やしても買い手も食べる人もいなければ当然魚価が下がってしまう。そのため、現在の消費動向を知っておく必要がある。考え方自体はこのままでよいが、ソフト面で観光的な用途を取り入れるなどして、お客様に商品を届けていくとよい。

また、徳島県の市場の事例では、規模は小さいかもしれないが、再整備の検討が立ち上がってから4～5年で建替えが完成している。スケジュールを早くできないか。

(中川部会長)

だいぶ努力していただいているが、再整備を加速していく必要がある。

観光客という不安定なものに頼るのは難しい。この市場の最大の弱点は後背地との関係が弱くなっていることである。豊洲や横浜の強みは背後地に水産会社があって、陸送品として冷凍品等を冷蔵庫のネットワークで流していることだ。小田原は魚の集荷力が弱いため、売れる品物を全国から集荷してきて、近隣と比較的中距離にある証券に手を伸ばさなければならない。

(瀬戸委員)

小田原のブランド力をいかに発信できるかが大切である。冷凍品は少し前に比べるといろいろなものが出てきている。それを考えると冷凍食品の商品化によってはまだまだ可能性を秘めているものである。小田原は箱根、熱海という観光地に挟まれているため、うまく使えばまだ伸びしろがある。

(富樫委員)

退職する前は建設会社にいたが、既存施設を残しつつ整備を進めるというのは難しいと思う。また二階の食堂が人気だが、工事中はどうするのか、そしてテナント等を増やすのかという点についても検討が必要。

(3) 小田原市公設地方卸売市場条例施行規則の一部改正について

続いて、議題の「(3) 小田原市公設地方卸売市場条例施行規則の一部改正について」審議が行われ、事務局から説明を行い、中川部会長進行により質疑が行われた。

<各委員から主な意見等は次のとおり>

(高橋委員)

純粋に生産者としての立場では手数料が低い方がよいが、4.5%ではいずれ上げる必要がある。1%上げた4.8%がちょうどいいと思う。

(神山委員)

卸業業者としては委託手数料が一番大事であり、高橋委員が提示している数字でよいのであれば、ぜひお願いしたい。

(瀬戸委員)

委託手数料は常に見直すべきものであり、今回の見直しにも賛成する。市内漁業者と市外漁業書の両方を1%上げた方が、周りにも説明しやすく、見た目も平等だ。

(富樫委員)

上げる割合は両方とも合わせた方が良い。

意見等が尽きたことから会議進行役を、中川部会長から再び事務局に戻し、次回の審議会については各部会での状況に応じて決めさせていただくことを連絡し、令和8年度第1回小田原市卸売市場審議会を終了した。

以上